

# 国産大豆の需要をめぐる動向

令和4年11月

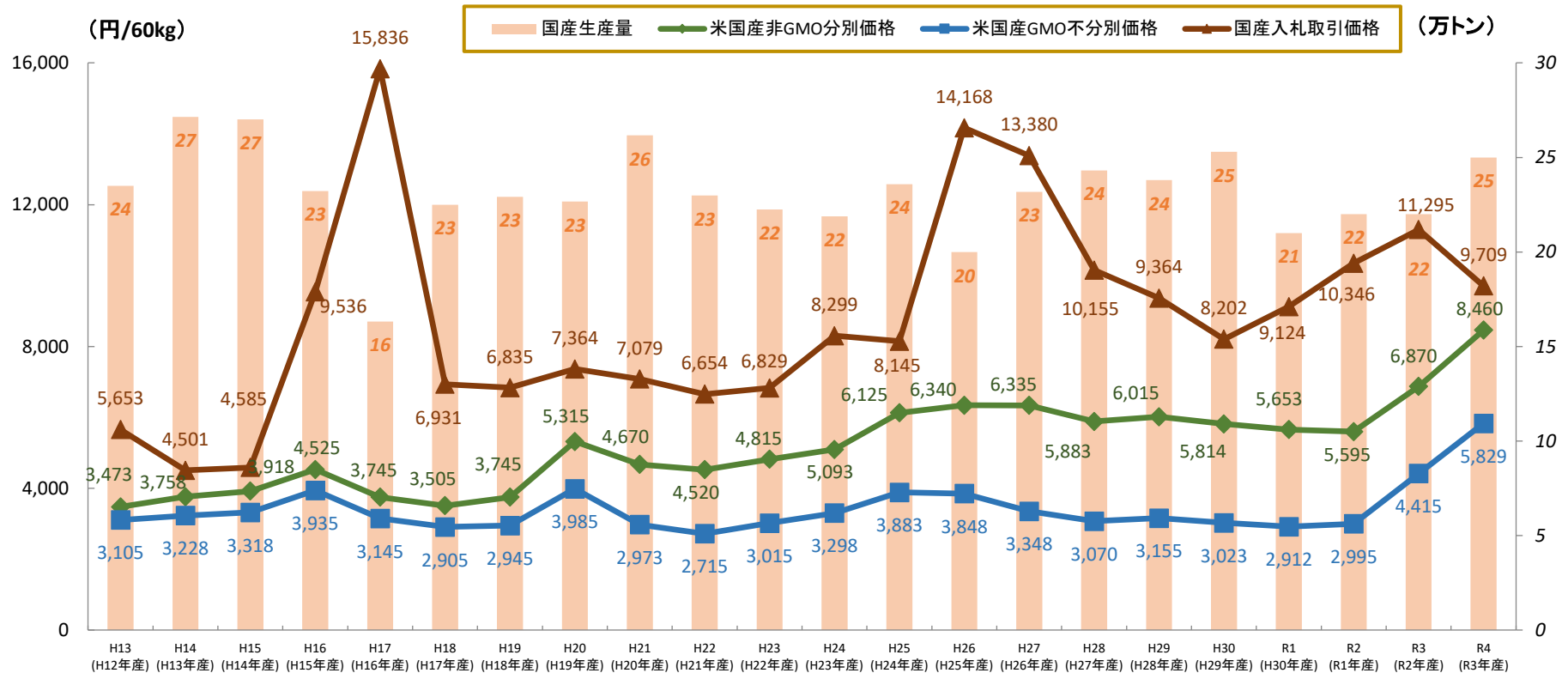
農林水産省 農産局 穀物課

注:本資料は、あくまでもアンケート結果を基に作成したものであり、必ずしも業界動向を正確に反映したものとは限らない。

# 1 大豆の価格動向

- 大豆の生産は、気象災害の影響等により減少する場合があります、これに伴い、価格も大きく変動。
- 国産大豆の価格の安定は、国産大豆の継続的な使用のための重要な条件の一つであり、実需者から安定生産を求める声強い。

## ○ 国産大豆の生産量、大豆の国産価格・海外産価格の推移



注1. 米国産非GMO分別及びGMO分別は、日経商品主要相場で暦年(R4は7月時点まで)による平均価格(税抜)。  
 2. 国産入札取引価格は、(公財)日本特産農産物協会における入札結果で各年産の平均落札価格(税抜)。

## 2 大豆の需要動向

- 大豆の需要量は、中期的に増加傾向で推移しており、令和3年度は約356万トンとなった。食品用についても需要は堅調であり、近年は約100万トンで推移している。
- 国産大豆は、実需者から味の良さ等の品質面が評価され、ほぼ全量が豆腐、煮豆、納豆等の食品向けに用いられる。令和3年度の食品向けに用いられる国産大豆の量は、昨年より2万8千トン増加し、約24万トンとなった。

### ○ 我が国における大豆の需要状況

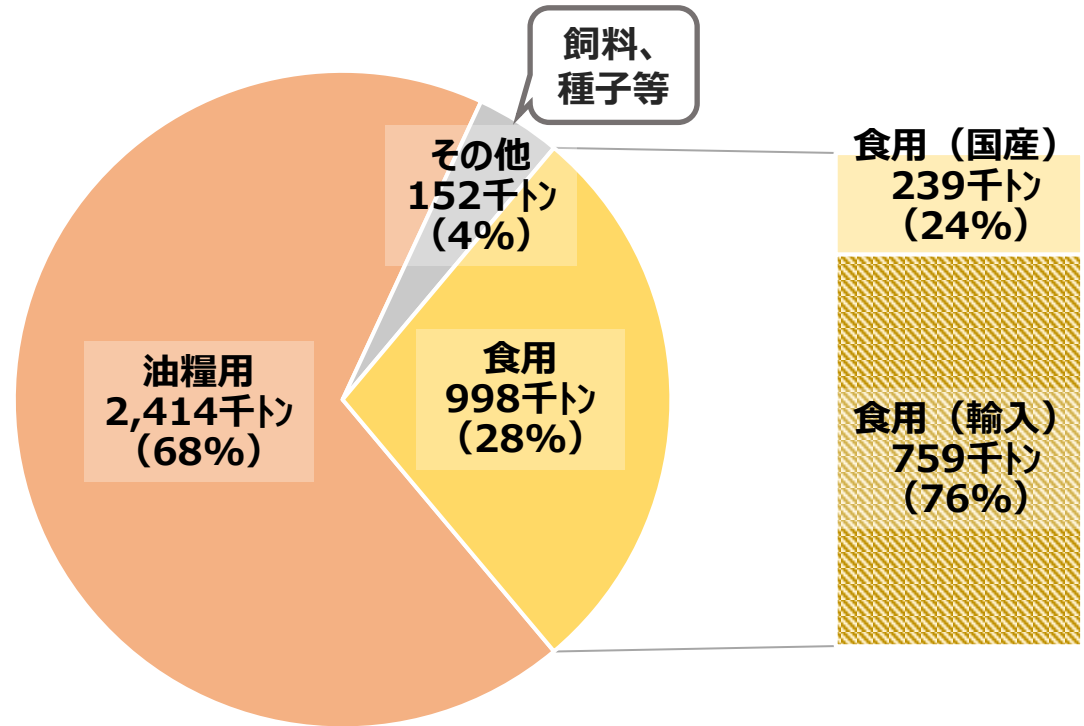
(単位：千トン)

	需要量	うち食品用		自給率
		うち食品用	うち国産	
H28年度	3,424	975	231	7%
H29年度	3,573	988	245	7%
H30年度	3,567	1,018	203	6%
R元年度	3,683	1,030	210	6%
R2年度	3,498	1,053	211	6%
R3年度 (概算)	3,564	998	239	7%

出典：食料需給表

注：「うち国産」は穀物課推定。なお、「うち国産」に種子分は含まれていないが、「自給率」は種子分を含めて算出している。

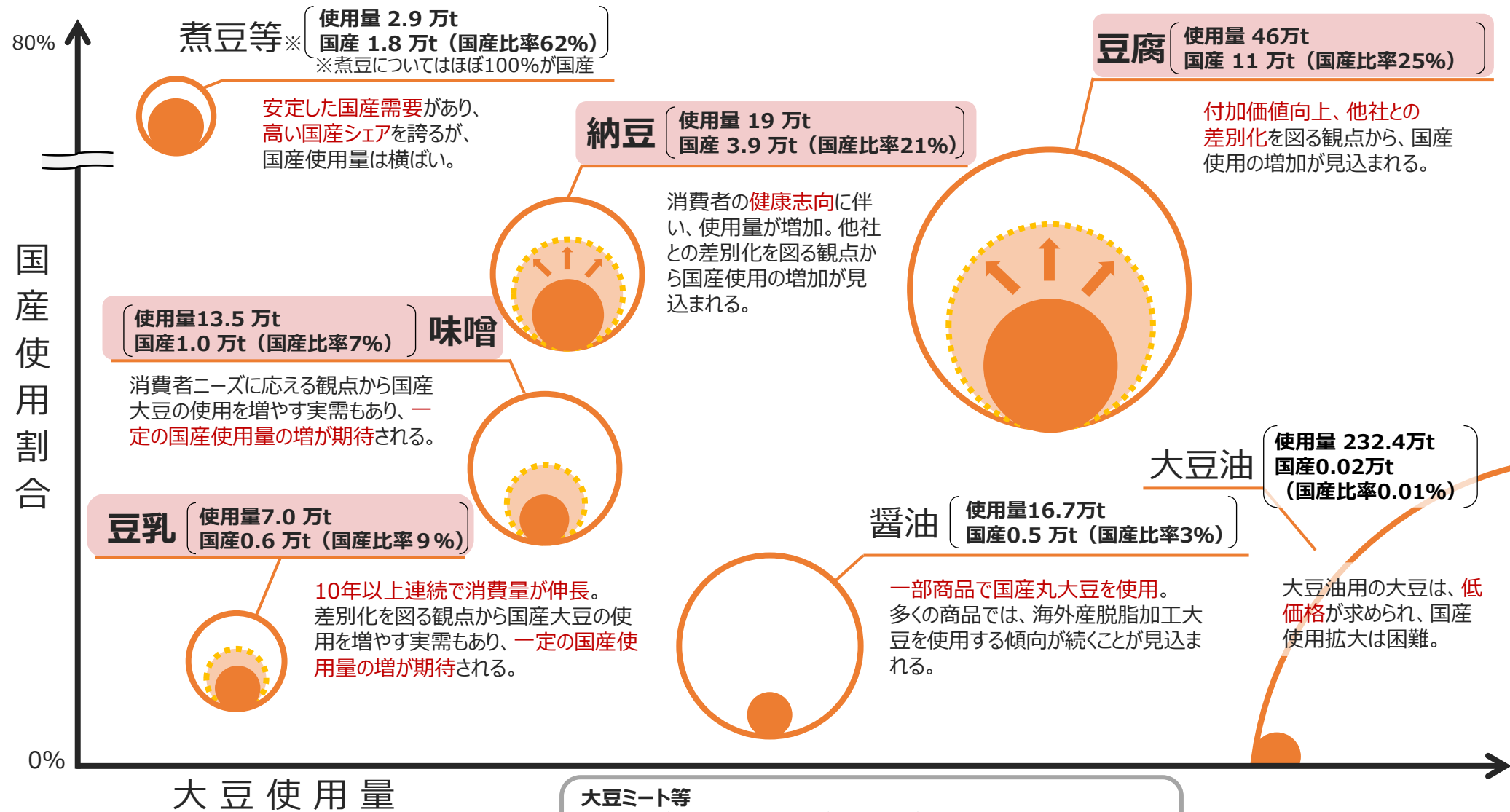
### ○ 我が国の大豆の需要量(令和3年)



出典：食料需給表

注：四捨五入の関係で、100%に一致しない場合がある。

### 3 大豆の用途別需要動向（イメージ）



(注) 円の大きさは大豆使用量を表している

資料：ヒアリングに基づき穀物課で作成

大豆使用量、国産比率はヒアリングを基にした穀物課推計

#### 大豆ミート等

- ・加工度が高く、大豆の品質が反映されづらいため、原材料は安価な海外産脱脂加工大豆を使用するが多い。
- ・シェア拡大にあたっては、**国産の付加価値の創出**が課題。

## 4 大豆の需要動向（今後の見込み・用途別）

- 今後の食用大豆需要見込みについて実需者にアンケートを実施した結果、全ての業界を通じて、今後の5年間の大豆使用量は増加見込み。
- 国産大豆についても、価格、供給量、品質の安定が前提となるものの、消費者ニーズへの対応や高付加価値化に向け、需要が堅調となる見込み。

### ○ 食用大豆の需要見込みについて

	R3年度実績数量 (千トン)		R4年度 需要見込み		R5年度 需要見込み		R9年度 需要見込み	
		うち国産		うち国産		うち国産		うち国産
<b>全体</b>	<b>998</b>	<b>239</b>	<b>103%</b>	<b>105%</b>	<b>104%</b>	<b>106%</b>	<b>114%</b>	<b>125%</b>
豆腐・豆乳			104%	107%	106%	109%	124%	142%
納豆			101%	101%	103%	103%	104%	104%
煮豆			102%	103%	105%	105%	109%	111%
味噌			100%	106%	102%	108%	103%	108%
醤油			102%	104%	104%	105%	105%	106%

※ R3年度実績数量は「食料需給表」を基に、穀物課推計。

※ R4年度以降の需要見込みは各業界団体からのアンケート結果（豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ：n=148）を基に、穀物課推計。

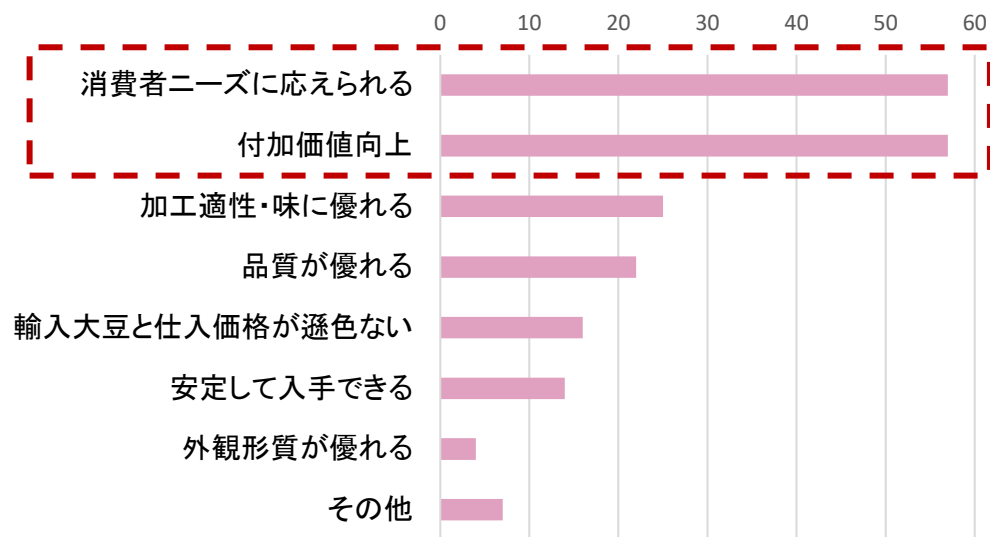
「全体」については、豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油のほか、きなこ、油揚げ等を含む。

なお、需要見込みについては、R3年度の実需者実績を基準とした比率を示す。

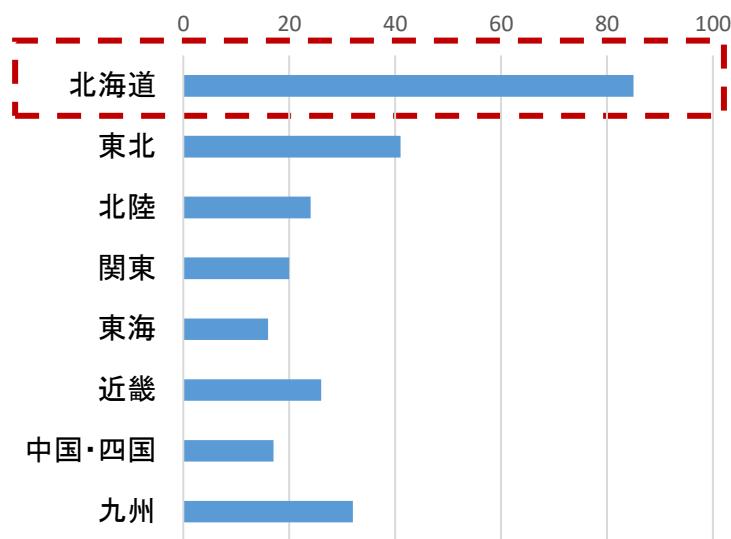
## 5 国産大豆使用の意向

- 今後国産大豆の使用を増やす予定の実需者は、主な理由として「消費者ニーズに応えられる」「付加価値が向上する」との回答をあげている。
- 増産を希望する産地については、北海道産のほか、地元に近い産地の増産を望む傾向がみられた。

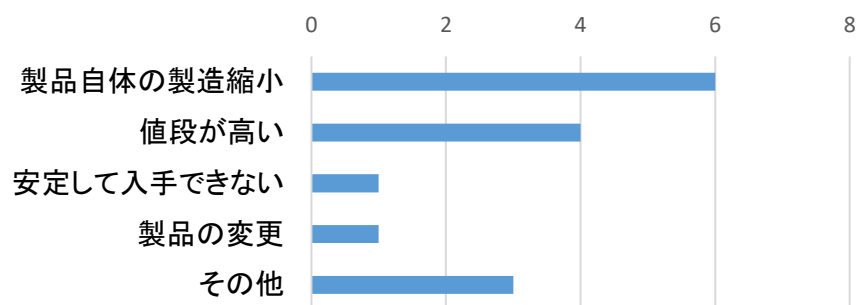
### ○ 国産大豆を増やす理由(複数回答)



### ○ 今後増産を希望する産地について(複数回答)



### ○ 国産大豆を減らす理由(複数回答)



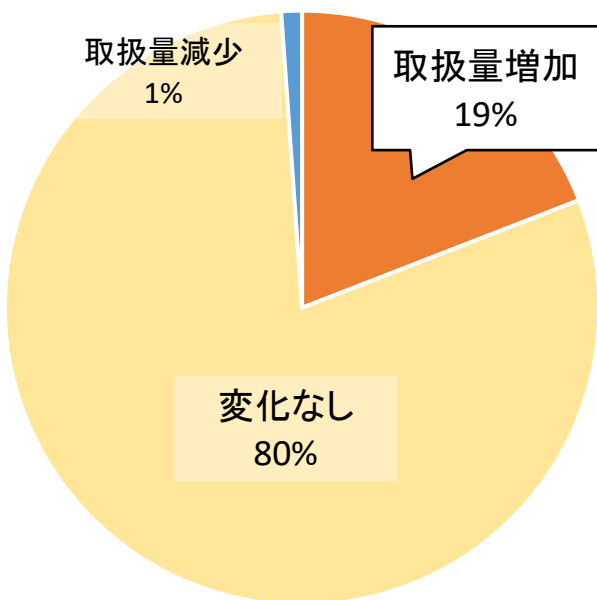
※ 各業界団体からのアンケート結果(豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ：n=148)を基に、穀物課推計。

## 6 最近の国産大豆使用量の変化

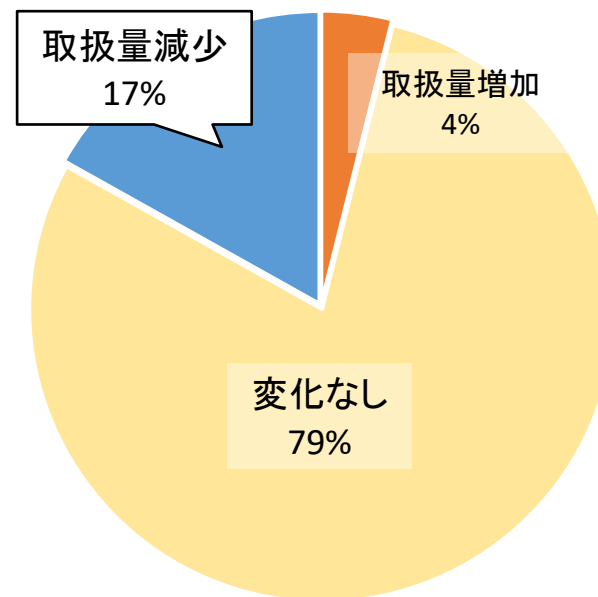
- ロシア・ウクライナ情勢を受けた大豆取扱量の変化に関して、「国産大豆の取扱量を増加した」と回答した割合が19%、「海外産大豆の取扱量を減らした」と回答した割合が約17%となった。海外産大豆から国産大豆へのシフトが一部で進んだとみられる。

### ○ ロシア・ウクライナ情勢を受けた大豆取扱量の変化

国産大豆の取扱量の変化



海外産大豆の取扱量の変化

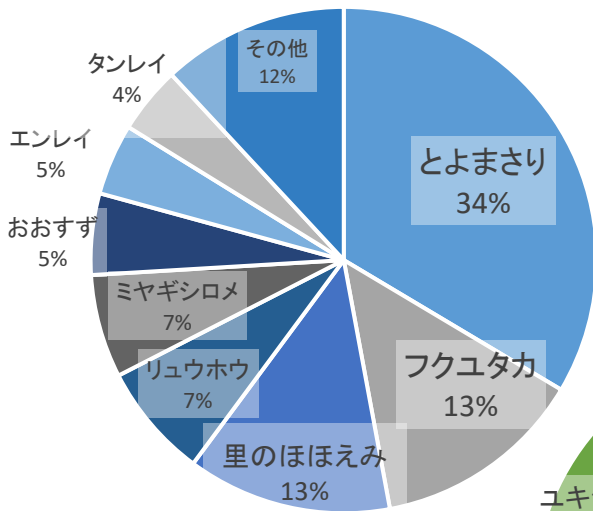


# 7 業界ごとの国産大豆の使用品種内訳

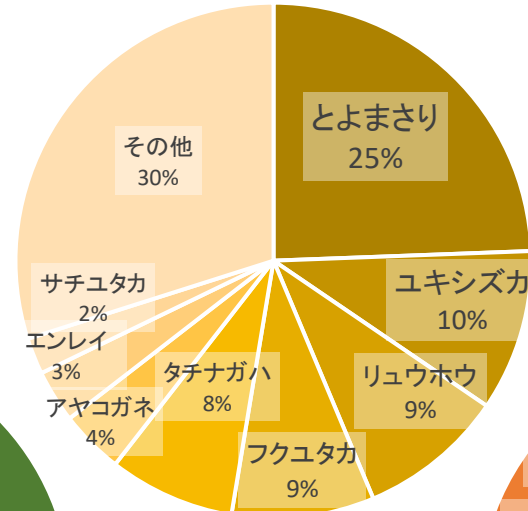
- 国産大豆使用割合の高い豆腐、納豆、煮豆、味噌業界は、生産量が多い「とよまさり」「フクユタカ」の使用割合が高い。
- 豆腐・豆乳業界はタンパク含量の高い品種が多く、北陸・関東を中心に栽培される「里のほほえみ」も多い。
- 納豆業界は「ユキシズカ」など小粒品種の割合が高い。
- 煮豆業界は黒大豆の使用量が高いことが特徴であり、全体の3割程度を占める。

## ○ 使用品種（国産大豆）の内訳

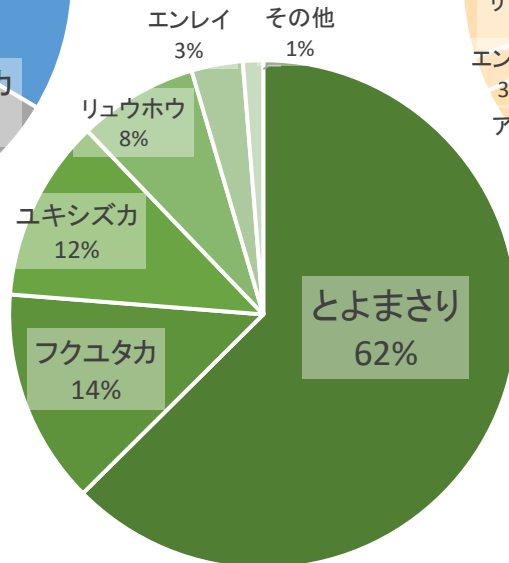
### 豆腐・豆乳



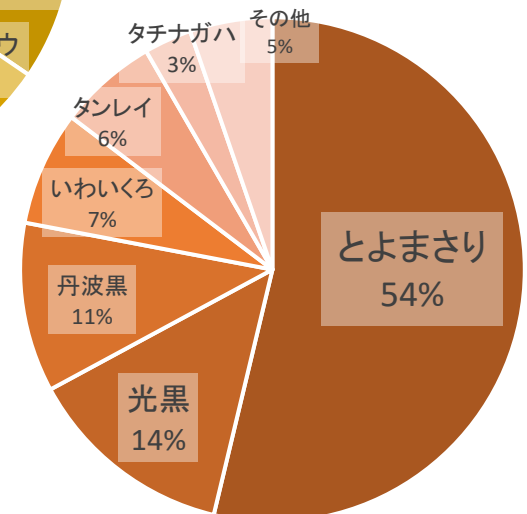
### 味噌



### 納豆



### 煮豆



※ 各業界団体からのアンケート結果(豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ:n=148)を基に、穀物課推計。

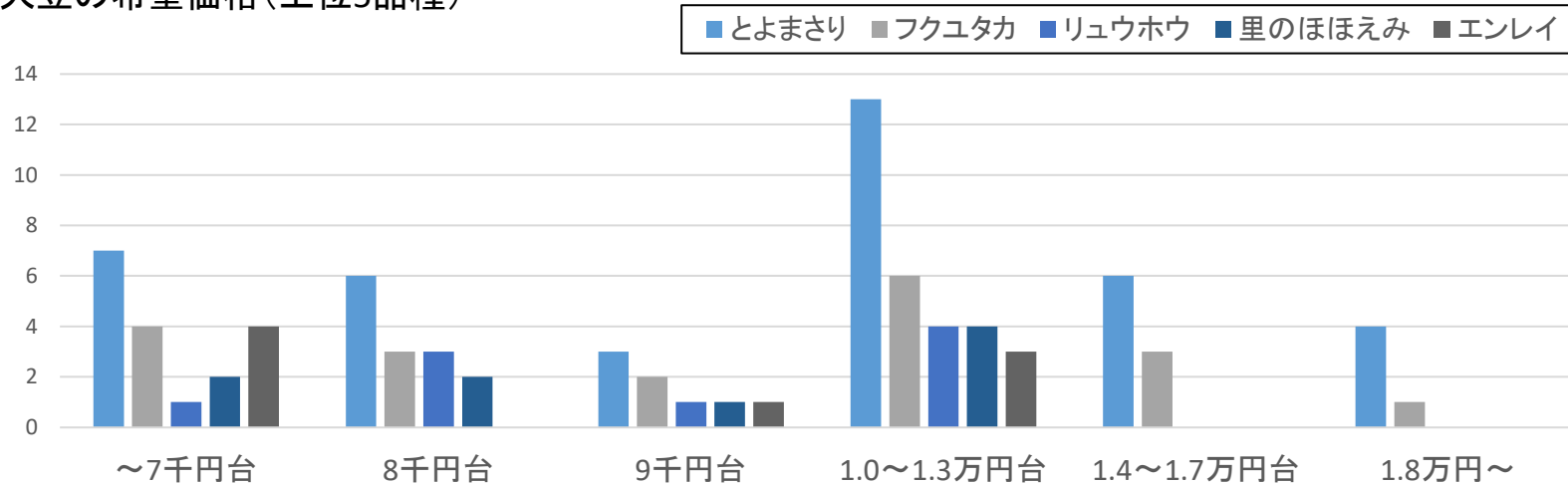


## 8 品種別メーカー希望納入価格

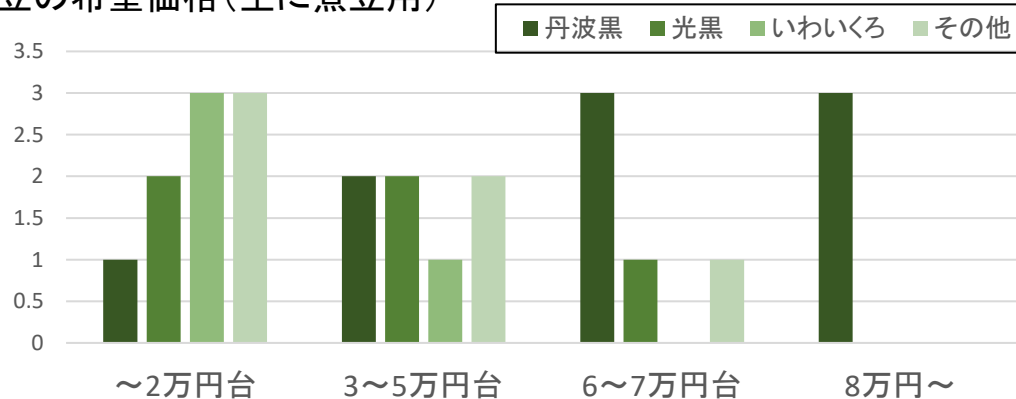
- 黄大豆では、とよまさり・フクユタカにおいて、1万円～1.3万円/60kgの価格帯を希望する回答が多い。
- 黒大豆（主に煮豆用）では、丹波黒は6～7万円、光黒は3～5万円/60kgを希望する回答が多い。

### ○ 品種毎のメーカー希望納入価格（※価格は1俵あたり）

#### ➤ 黄大豆の希望価格（上位5品種）



#### ➤ 黒大豆の希望価格（主に煮豆用）



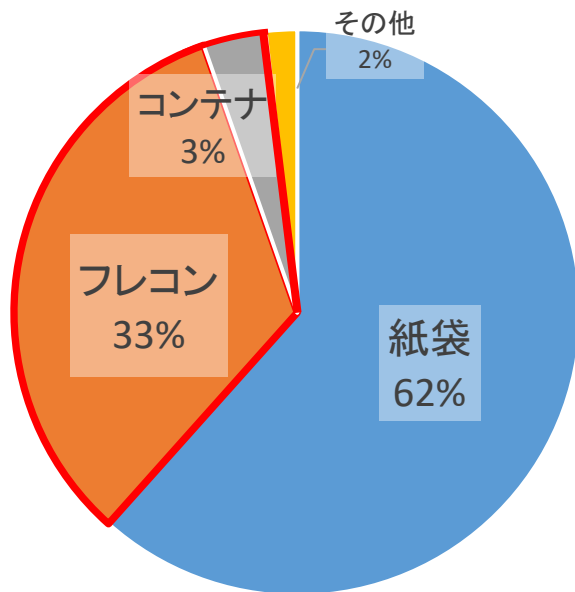
※ 各業界団体からのアンケート結果(豆腐、豆乳、納豆、煮豆、味噌、醤油、きなこ:n=148)を基に、穀物課推計。

## 9 流通形態について

- 大豆の購入形態について、回答者全体では紙袋を希望する回答が62%、フレコン・コンテナを希望する回答が36%。
- 大豆を国産・海外産問わず500t以上使用している回答者においては、フレコン・コンテナでの購入を希望する回答が72%となり、紙袋を希望する回答を大きく上回る。

### ○ 増加させたい購入形態（紙袋、フレコン、コンテナ、その他）

回答者全体(107社)



大豆を500t以上使用している回答者(44社)

※大豆の使用量は国産大豆と海外産大豆の合計値

